

# 大学生と農山漁村との連携事例



立命館大学

実施主体名：きぬがさ農園Kreis

※Kreisとはドイツ語で「輪、繋がり」を意味しています

担当窓口

立命館大学地域連携課

URL

[https://www.instagram.com/kinugasanoen\\_\\_kreis/](https://www.instagram.com/kinugasanoen__kreis/)



## 活動内容

農園運営の起点となるのは、持続可能な開発目標（SDGs）の実践。大学内の落ち葉から腐葉土を作り、農園の土に混ぜて無農薬の野菜を育て、学内の食堂に提供したり活動に参加している学生や地域の方などに配ったりして地産地消のサイクルを作っている。地域の方と交流しながら農作業をすることによって、世代間を超えた地域交流の場としても機能している。



## きっかけ

大学が落ち葉の処分にお金を払っていることを知った初代代表が、ゴミとして捨てるのはもったいないと大学に相談したことがきっかけ。大学側も地域交流の場を作りたかったことから、場所を提供して腐葉土を作る団体として創設され、そこからできた腐葉土で野菜を作り始め今のサークルの形になった。2025年秋から7期目の活動をスタートさせている。



## 展望

現在の地域交流を続けながら、衣笠地区のイベントなどに参加してより広い地域の輪を形成していきたい。また、イベントに参加するだけでなく、育てた野菜を販売するブースを作ったり、野菜を使って料理を作って振る舞うといった自発的なイベントも増やしていきたい。



（耕運機で畝を作る様子）



（落ち葉に水をやって腐葉土に育てます）



（収穫した大根）



（みんなでタマネギを植える様子）